

【2016 年度の総括】

①収支状況（表中の単位：千円）

決算見込み		予算比 (%)	前年比
収入	61,363	98.1	↓
支出	64,697	107.7	↑
経常収支差額	-3,334	-136	↓

評価：COCORO への移行に伴う利用者減と設備工事などの経費増で赤字となる見込み



②職員配置と研修（職員数は 2017 年 1 月現在）

正職員 7 名（サビ管 1 名含む）、パート職員 13 名（1 日 5 名ほどの出勤）の体制。
研修は法人研修や外部研修で ABA や PECS について学び、少しずつ現場での支援に活かしている。

③事業内容

今年度より班体制を一新。お米の配達や地域の清掃、チラシの配布などの外に出て体を動かすことを中心とした「じゃんぶ班」。チラシ折や商品の袋詰めなどの軽作業をしながら、創作や余暇活動を主体的に取り組んでいる「きらり班」。個別対応を中心に散歩や園芸、創作や調理に取り組んでいる「いろどり班」。以上の 3 班に分かれての活動を行なっている。3 班それぞれで一人ひとりのニーズに合わせた支援をしている。

【2017 年度の計画】

①予算案のポイント

費目	予算(単位:千円)	前年比	算出根拠・購入物品など
収入	74,400	↑	新規利用者の獲得による稼働増
支出	60,130	↓	作業室エアコン修理

②主課題

- ◎構造化や視覚化を進めて、各班で利用者が過ごしやすい環境を整備する。
- ◎ABA や PECS といった根拠に基づいた個別支援の実施。
- ◎各班の活動の充実と定着。

③年間事業計画（予定）

4 月	お花見	10 月	稲刈り交流会
5 月	田植え交流会	11 月	各班外出
6 月	各班外出	12 月	クリスマス会
7 月	BBQ	1 月	新年会
8 月	お盆休み	2 月	勉強会
9 月	旅行・懇談会	3 月	懇談会

【2016年度の総括】

① 収支状況（表中の単位：千円）

決算見込み		予算比 (%)	前年比
収入	23,430	91.6	↓
支出	20,642	100.7	→
経常収支差額	2,788	55.0	↓

評価：稼働率不安定による収入減



清掃班外出(梅田スカイビル)

② 職員配置と研修（職員数は2017年1月現在）

正職員 3名(うち生活介護所属 1名)パートスタッフ 7名(うち生活介護所属 4名は週1～2日の勤務)。日々の配置は清掃班 1～2名、製パン班2～4名としている。

研修は製パンに関わる技術面、発達障がいや行動障がいなどの支援に関わる研修に参加している。他、法人研修に参加。

③ 事業内容

製パン班の担当者の変更により、新たに引き継ぎ職員を配置している。パンの製造、販売について注文に応えることが難しいこともあり、見直しは始めている。清掃班では住吉診療所からのクレームに対応し、清掃用具の変更・体臭の講習など臭いの対策を行なった。剥離 WAX 作業を取り入れることで、利用者工賃の維持を図っている。両班ともに行動に難しさを抱える利用者が数名あり、面談を行ったり、支援の方法の再検討する機会を多く持った。

【2017年度の計画】

① 予算案のポイント

費目	予算(単位:千円)	前年比	算出根拠・購入物品など
収入	25,250	↑	
支出	22,062	↑	パン工房オープン修理

② 主課題

現在、支援の方法について多数研修にて知識を得ており、それを利用者支援に活かした方法を考える。GH入居や一人暮らしの利用者が多く、ご本人の生活の安定が安定した通所につながるため、支援者間の情報共有は引き続き重点をおいて行なっていく。製パン班においてはパン製造の引継ぎが長期的に必要なため、製造の内容の見直しを行なっていく。

③ 年間事業計画（予定）

4月	お花見	11月	日帰り旅行
5月	製パン班外出	12月	クリスマス会
6月	清掃班外出	1月	清掃班外出
7月	粉浜商店街夜店祭り	3月	年度末三者懇談
8月	合同BBQ		
9月	1泊旅行		

【2016 年度の総括】

① 収支状況（表中の単位：千円）

決算見込み		予算比 (%)	前年比
収入	78,877	95.1	↓
支出	64,373	100.0	↑
経常収支差額	14,504	78.2	↓

評価：調不良を始めとする急遽の休みが増えたことや年度途中の退所も重なり稼働率の低下が見られた。年度後半より新規利用者や通所日数を増やす事で稼働の微増を図る。



② 職員配置と研修（職員数は 2017 年 1 月現在）

- 常勤職員6名、契約職員2名。パート職員12名
- 2016年9月に常勤職員1名異動、常勤職員1名入職。2016年11月に常勤職員1名退職。

③ 事業内容

今年度は COCORO が創設された事により利用者が一部移籍したこと、また入浴が2Fのみとなった事で入浴事業は縮小している。活動においてはさくら班が 10 年目を迎えたので各部署との合同の取り組みを多数行なった。環境整備を 7 月に行い、安全性を配慮してパーティションでの構造化を図り個別スペースなどを設けている。結果的にヒヤリハットの軽減、スタッフ配置の合理化、個別支援への集中が図れている。また Kirinn 班においては活動収入を各個貯金して好きな物を買に行く、外食などの事業を重ねて活動⇨好きな物につながる実践を行なえたと微力ではあるが思料する。

【2017 年度の計画】

① 予算案のポイント

費目	予算(単位:千円)	前年比	算出根拠・購入物品など
収入	83,160	↑	新規契約者による稼働率の回復
支出	60,046	↓	入浴機器メンテナンス費、衛生物品、事務用品、取り組み材料費

② 主課題

・スタッフの確保と育成 ・環境整備 ・個別支援の強化

③ 年間事業計画（予定）

4 月	花見・歓迎会	5 月	家族会
6 月	班外出	7 月	バーベキュー
8 月	水遊び	9・10 月	懇談会
11 月	日帰り旅行	12 月	クリスマス企画
1 月	正月企画	2・3 月	懇談会

【2016年度の総括】

① 収支状況（表中の単位：千円）

決算見込み		予算比 (%)	前年比
収入	29,456	99.0	→
支出	25,350	99.0	↗
経常収支差額	4,106	94.2	↘

評価：サービス変更や家庭及び生活環境の変化による長期欠席者が増え稼働率が目標値に至らず、次期の課題と捉えます。

読売新聞

大阪府下版

に掲載頂きました！

毎日放送

VOICEで

放送されました！



② 職員配置と研修（職員数は2017年1月現在）

産休や退職など十分な職員配置ではない中、毎月に渡る大規模イベントへの出店や日々のメンバーさんの店舗営業の努力の結果、毎日放送、読売新聞をはじめ様々なメディアからの取材もあり、ご新規様のご来店も大幅に増え、常連様となって下さる方々も沢山増えました。

③ 事業内容

喫茶店はメンバーさん考案による限定メニューを定期的に提供、好評を得ました。ラーメン店に関しては毎日放送、読売新聞、ボランティア市民活動情報誌等に取材を受け、放映、掲載を頂いた結果、多大な反響を得ることが出来、法人PRにも大きく繋がりました。また来季からの新規事業（プリント事業）や駅前テナントでの新規事業（軽食関連）立ち上げに伴う専任指導者との打合せや機材の搬出及び搬入、設置に伴う修繕、見積もり等準備を進めております。またボランティア受入を始めしております。加えて移動販売は前年度に比べ出店数がおおよそ1.2倍増となりました。

【2017年度の計画】

① 予算案のポイント

費目	予算(単位:千円)	前年比	算出根拠・購入物品など
収入	31,910	→	
支出	27,179	↗	9号館4号店舗開設に係る業務備品購入及び設置工事、改修工事・浄水器フィルター交換等

② 主課題

～喜びが増えるお店作りを目指します～地域住民の皆様にとって新たな社会資源として、そしてメンバーさんの新たな就労の形を創設すべく、オリジナル T シャツをはじめとするプリント事業や子ども達が気軽に集える軽食屋等、新規事業を立ち上げます。

③ 年間事業計画（予定）

4月	イベント出店	10月	イベント出店
5月	イベント出店	11月	イベント出店
6月	イベント出店	12月	イベント出店・大掃除・外食研修
7月	イベント出店	1月	イベント出店
8月	イベント出店・外食研修	2月	イベント出店
9月	イベント出店	3月	イベント出店

【2016年度の総括】

① 収支状況（表中の単位：千円）

決算見込み	予算比 (%)	前年比
収入	67,563	100.8 
支出	45,268	104.9 
経常収支差額	22,295	93.5 



評価：新規利用 1 名。大きく体調を崩すメンバーが少なかったため、収入は安定していた。

② 職員配置と研修（職員数は 2017 年 1 月現在）

○常勤職員 6 名、パート職員 5 名(内 1 名 8 月末退職予定)、派遣職員 1 名(3 月末まで)。今年度は異動により常勤職員の入れ替えがあり、年度当初は主任不在の状態で常勤スタッフに大きな負担をかけた。またパート職員も 2 名は 11 月途中からの採用、パート職員のうち 3 名は週 2 日か 3 日の勤務。今後の体制の安定と質の向上が課題となる。

③ 事業内容

アート・手芸・さをりの 3 班に分かれてモノづくりを中心に活動。夏のアートギャラリーを軸に、アート班は公募作品展への出品、手芸やさをりは季節に応じた商品を喫茶やパンプ出版売したり、注文製作を行ったりしている。それ以外になごみ喫茶、るーぶカフェを行っており、就労の大きな収入源にはなっている。モノ作りを通して社会との関わりを作り上げることが活動の軸ではあるが、障がいの重いメンバーも多く、ウォーキング等の外出のニーズも高く、買い物や地域清掃、コーヒータイム等と日々の作業との組み合わせが必要。

【2017年度の計画】

① 予算案のポイント

費目	予算(単位:千円)	前年比	算出根拠・購入物品など
収入	66,500		1 名入所で利用者減だが、スペースなど環境の問題などもあり。新規の利用予定はない。ショートステイ利用のためるーぶ利用が減る事が予測される利用者もあり、やや減少が見込まれる。
支出	45,510		

② 主課題

「いろんな意味でシンプルに～何が必要か整理整頓～」

- メンバーが活動に取り組みやすい環境づくり。(環境整備や現状に適した視覚支援の工夫)
- 支援計画に基づいた具体策の実施と評価を確実にこなす。
- 職員全体のスキルアップ
- 地域の中に入るーぶはある事を意識し、まずはであいの中での交流から。

③ 年間事業計画（予定）

4月	春の外出	10月	であい祭
5月	春の外出	11月	秋の外出
6月		12月	
7月		1月	初詣
8月	るーぶアートギャラリー	2月	家族会・後期個別懇談会
9月	前期個別懇談会	3月	花見

【2016年度の総括】

① 収支状況 (表中の単位：千円)

決算見込み		予算比 (%)	前年比
収入	44,972	104.5	
支出	45,605	111.6	
経常収支差額	-633		

評価：年度途中で3名の新規利用があり、予算以上の収入を見込めるが、経費も相応に上昇したので赤字となる見込



② 職員配置と研修 (職員数は2017年1月現在)

●職員配置

サービス管理責任者兼管理者1名、常勤3名、看護師4名、理学療法士2名(*他部署兼務)、パート支援員8名(運転手1名兼務)

*1日平均ひなた常勤2~3名、パート支援員1~2名(メンバー1日平均4.6人)

つなぐ常勤1~2名、パート支援員2~3名(メンバー1日平均11.2人)

年度途中でパート支援員が退職されてからの補充が解消されず、他部署からの応援をもらうことで対応。また、入浴、トイレ、排泄による慢性的介助の負担が目立つ。プログラムと介助面の両立の難しさを痛感した。

●研修

支援学校の養護教員や重度心身障がい者施設の見学、医療的ケアの研修への参加の機会を設ける。また、口腔ケア勉強会も開催。重度かつ医療的ケアの必要な障がいの方々への支援につなげていく。

③ 事業内容

●つなぐ

企業からの受注作業を中心としたプログラムを運営。メンバーの作業のスピード化と収入アップを図り、現在は計3社から受注。それ以外に、メンバーのニーズに沿った企画も実施。盆休みやクリスマス会、新年会などで昼食作りを開催。次年度はメンバーの増加に伴い、安定した給料の提供が必須である。受注先を増やすのとスムーズな検品作業のライン工程が課題となってくるであろう。

●ひなた

重症心身障がい者対象のプログラムとして、曜日別で個別と集団(体操、散歩、園芸、調理)プログラムを実施。個々のニーズの把握までに至らず、モニタリングが必須となる。プログラム運営と同時に、入浴、排泄、食事の介助にかかる人員の割合が高く、介助面に時間を割くこととなり、プログラムが円滑に回らないのが大きな課題となる。

医療的ケアとして看護師を日替わりで常駐する。個々のカルテの整理や医療器具の充実を図り、今後増えるであろう重度障がいのメンバーへの準備を中心に動いてもらう。

メンバーの介助方法の見直しを理学療法士中心に行なっている。トランスファーに対するメンバーの安全面と職員の負担軽減を目指していく。

【2017年度の計画】

① 予算案のポイント

費目	予算(単位:千円)	前年比	算出根拠・購入物品など
収入	55,200	↑	つなぐ：新規利用5名 ひなた：新規利用2名、曜日追加利用1名
支出	53,255	↑	正職員1名増・備品の追加購入あり

② 主課題

『目の前の課題に対して、ひとつでも多くの達成感を味わおう!!!』

【つなぐ】

- メンバー5名増員。作業の確保と工賃のベースアップを目指し、受注作業の拡大が必要。メンバー個々のスキルを生かし、作業工程の範囲を広げてメンバーのスキルアップを目指していく。
- 多数を非常勤職員が占めており、かつ、体制が固定化している。その利点を活かし、非常勤職員中心の現場運営を目指す。メンバー個々の情報共有のためのツールとして連絡ノートの活用し、担当職員がスーパーバイザー役を担う形の構築を目指す。

【ひなた】

- メンバー2名増員、1名曜日追加利用。集団プログラムにおいて、月曜日を中心にプログラムの定着を図っていく。①理学療法士の指導を基にした体操プログラムの実施。②調理実習の実施。③散歩、買い物などの外出。上記3点を固定化し、プログラムの質の向上を目指していく。
- 看護師、理学療法士との連携を密に重ね、重症心身障がい者対象の施設のイメージ化を構築していく。看護師とはメンバー、家族と随時連携を取っていける体制を作り、重度の障がいを持った方々が安心して過ごせる居場所を目指す。理学療法士とはメンバー個々の身体状況を確認していき、介助方法の安全、安心を目指していく。さらに、トランスファーや腰痛予防の体操など研修を重ねていき、支援員の質の向上に活かしていく。
- 支援員の喀痰吸引、経管栄養などの研修の受講により、医療的ケアの実務者となって、日々のケアの範囲や重度の障がい者への視点の幅の拡大し、より丁寧な支援を目指していく。

③ 年間事業計画（予定）

4月	新規メンバー懇談	10月	外出
5月	新規メンバー懇談、外出	11月	外出
6月	外出	12月	合同企画
7月	前期個人懇談	1月	後期個人懇談
8月	前期個人懇談、合同企画	2月	後期個人懇談、新規メンバーオリエンテーション
9月		3月	